

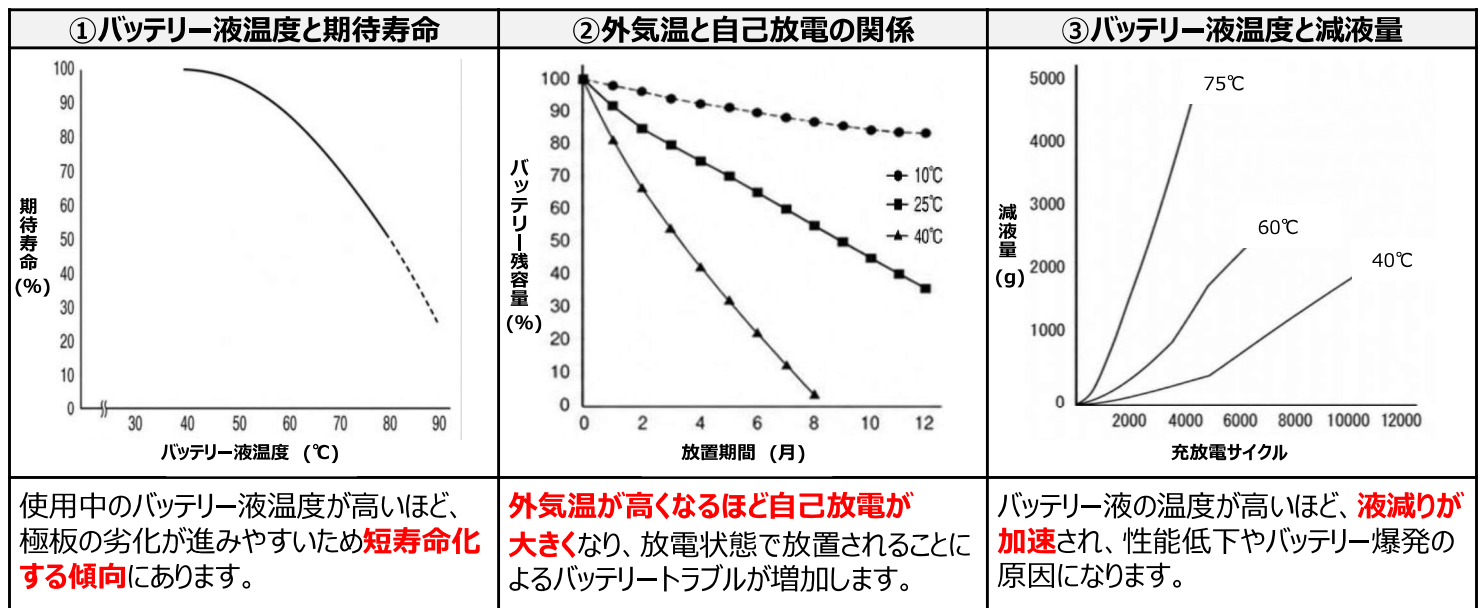
夏場のバッテリートラブル

夏場は冬場に次いで、バッテリートラブル件数が多い時期です。今号では、夏場にバッテリートラブルが多くなる原因と、実際のJAFロードサービスによるバッテリー起因の救援件数をご紹介します。

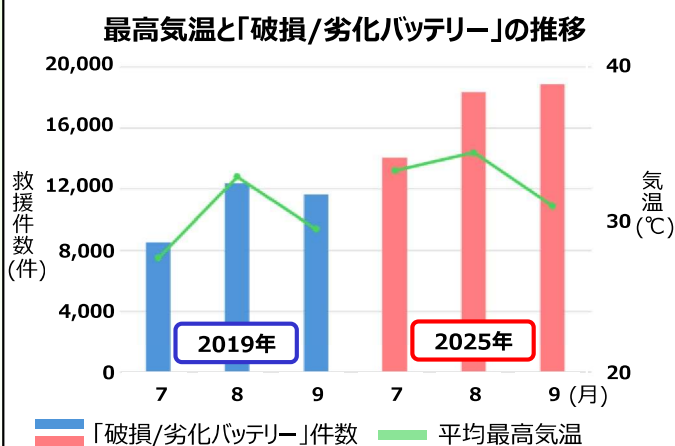
●夏場のバッテリートラブル原因

バッテリーから取り出せる容量は、バッテリー液の温度によって大きく変化します。温度が高くなると、化学反応が活発になるためバッテリーから取り出せる容量が増え、エンジンがかかりやすくなります。

しかし、グラフで示すようにバッテリートラブルの原因である①短寿命化、②自己放電、③減液などが進行します。



●夏場のバッテリー救援件数



	2019年(7~9月)	2025年(7~9月)
平均最高気温 (参考：東京都)	29.9℃	32.8℃
過放電バッテリー (JAF救援件数)	159,098件	160,939件
破損/劣化バッテリー (JAF救援件数)	32,499件	51,279件

約1.6倍に増加

2019年と2025年を比較すると「過放電バッテリー」の救援件数はほぼ変動しておりませんが、「破損/劣化バッテリー」の救援件数が**約1.6倍**に増えております。また、猛暑による高温環境および、エアコン稼働増加などが影響していると考えられます。

冬場はエンジンがかかりにくくなるため、ご自宅でバッテリートラブルが発生しやすいという特徴があります。一方、夏場はエンジンがかかりやすいためバッテリーの劣化に気づきにくく、出先でのトラブルが多くなる傾向があります。

出典：JAFロードサービス救援データ
<https://jaf.or.jp/common/safety-drive/library/road-service-report>

Point



- バッテリー液の温度が上がると、取り出せる容量は増えますが、短寿命化や自己放電、液減などが進み、バッテリー劣化の原因となります。
- 夏場はエンジンがかかりやすいため、バッテリーの劣化に気づきにくい季節です。定期的なバッテリー点検と早めの交換を心がけましょう。

